

安定志向

財団法人「日本青少年研究所」が日米中韓4カ国の高校生を対象に行った意識調査において「将来就きたい仕事」を尋ねたところ、日本の高校生は、「自分で起業する」と考えているのは6%に止まっている一方、公務員志望が4カ国中最多となっている事が明らかとなりました。

この調査は、昨年9月から11月にかけて4カ国の高校生約6600人（内普通科生は約5300人）を対象に行ったもので、2006年にも同様の調査を行っています。

日本の高校生については、下表の様に、公務員の他に教師や一般事務職の比率も高く、研究所では「全体的に職業に付随する経済力や威信には余りこだわらずに安定性や現実性を重視する為、被雇用職を中心に志向する傾向が強い」と分析しています。

参考：将来就きたい仕事の上位

日本	1位 公務員(20%)
	2位 教師(18%)
	3位 建築家・デザイナー(14%)
米国	1位 医師(31%)
	2位 建築家・デザイナー(25%)
	3位 スポーツ選手・歌手・俳優(19%)
中国	1位 起業家(32%)
	2位 企業の経営者・管理職(28%)
	3位 建築家・デザイナー(30%)
韓国	1位 建築家・デザイナー(30%)
	2位 教師(29%)
	3位 企業の経営者・管理職

なお、「自分で起業する」と回答した高校生は、中国の31.9%が最も多く、次いで米国の19%、韓国の12%と続き、日本は韓国の半分6%に止まっているのは、いささか寂しい気持ちになります。

「職業を選ぶに当たって、誰の影響が大きいのか」聞いたところ、父親、母親に次いで先生の影響が大きいようです。

なお、日本の場合、父親や母親の影響が他の国と比較するとかなり低い状況にあり、子どもの将来の進路選択に当たって、もう少し関わ

りを深くしても良いのではないかと思います。

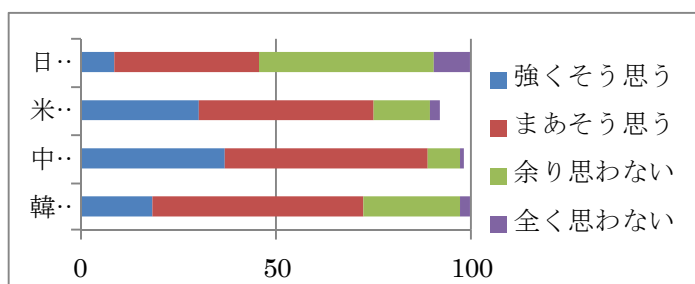
「仕事を選ぶ時に重視するもの」を聞いたところ、各国とも「適性や好み」を最も重視している他、「仕事の環境」「収入」「能力の発揮」等についてもほぼ共通して高い数値を示していますが、個別に

参考：職業を選ぶに当たって、誰の影響が大きいのか

	日本		米国		中国		韓国	
	男	女	男	女	男	女	男	女
父親	30.0	22.1	49.7	40.8	54.5	50.1	47.6	38.9
母親	24.2	36.1	42.8	52.9	49.1	58.7	53.2	62.6
親族	11.4	12.3	28.9	33.1	19.3	20.6	26.8	23.3
先生	18.0	9.9	12.5	16.0	14.9	16.5	17.3	18.0
メディア	24.1	27.4	11.6	14.5	10.4	10.5	40.9	52.2

見ると国による特徴も見えて来ます。まず、米国の高校生は「社会貢献」が突出して高い一方、「勤め先の知名度」は極めて低い状況にあります。会社の知名度にこだわらずに自分に合った仕事を選択しようという意思が強いのだと思います。中国は、「社会的地位」だけが他国と比較して明らかに高く、また、韓国も中国と同様に「社会的地位」が高率であり、両国ともに職業のステータスを意識する傾向が強いです（日本青少年研究所編「報告書」から）。日本はというと、いずれの項目もそれほど高い値を示しておらず、特に「社会的地位」「福利厚生」等は目立って低く、研究所では「将来の仕事にそうした積極的な付加価値を期待しない現代日本の高校生の意識の典型を見ることができる」としています。

「偉くなりたいと思うか」聞いたところ、「偉くなりたい」と回答した日本の高校生は約45%で4カ国の中では最低でした。何と云っても、中国の上昇志向には凄まじいものがありますが、日本はその対極にあって、日中間の勢いの差というものを強く感じてしまいます。



また、「偉くなることについての考え」を聞いたところ、先程の「偉くなりたい」という意識と連動して、この点についても日本の高校生はネガティブな意識が強いです。

日本以外の国の高校生は、偉くなると「責任が重くなる」し、「自己犠牲をしなければならない」ことを認識しつつも、それでも偉くなれば「自分の能力をより発揮できる」といった前向きな意識が強い事が伺えます。

日本以外の国の高校生は、偉くなると「責任が重くなる」し、「自己犠牲をしなければならない」ことを認識しつつも、それでも偉くなれば「自分の能力をより発揮できる」といった前向きな意識が強い事が伺えます。

日本の高校生は、全体として偉くなることにポジティブな評価をしていないし、「苦労してまで偉くなろうとは思わない」という意識が漂っているのは残念な事です。

参考:偉くなることについての考え

		日本	米国	中国	韓国
ポジティブ	偉くなると自分の能力をより発揮できる	18.6	61.5	61.0	70.1
	偉くなると周りに尊敬される	29.6	62.1	36.6	62.3
	偉くなるとお金持ちになれる	29.7	24.9	25.8	52.5
ネガティブ	偉くなると責任が重くなる	69.5	65.7	45.3	65.8
	偉くなると自分の時間がなくなる	29.9	18.2	15.5	35.6
	偉くなると自己犠牲をしなければならない	32.4	48.8	31.4	58.1

今回の日本青少年研究所の調査結果を見ると、日本の高校生には余り上昇志向が感じられません。これに対して、「日本の若者よ、もっとしっかりせよ!」といった声が聞こえて来そうです。しかし、そうした現状は、果たして子ども達だけのせいなのでしょうか。「将来への希望が持てない」、「出来るだけリスクを避けたい」といった姿勢は、今の大人社会の投影なのではないでしょうか。

子ども達を叱咤激励する前に、まずは我々大人達が生き生きとした姿を子ども達に見せる必要があると、私には思えるのですが……。 (塾頭:吉田 洋一)